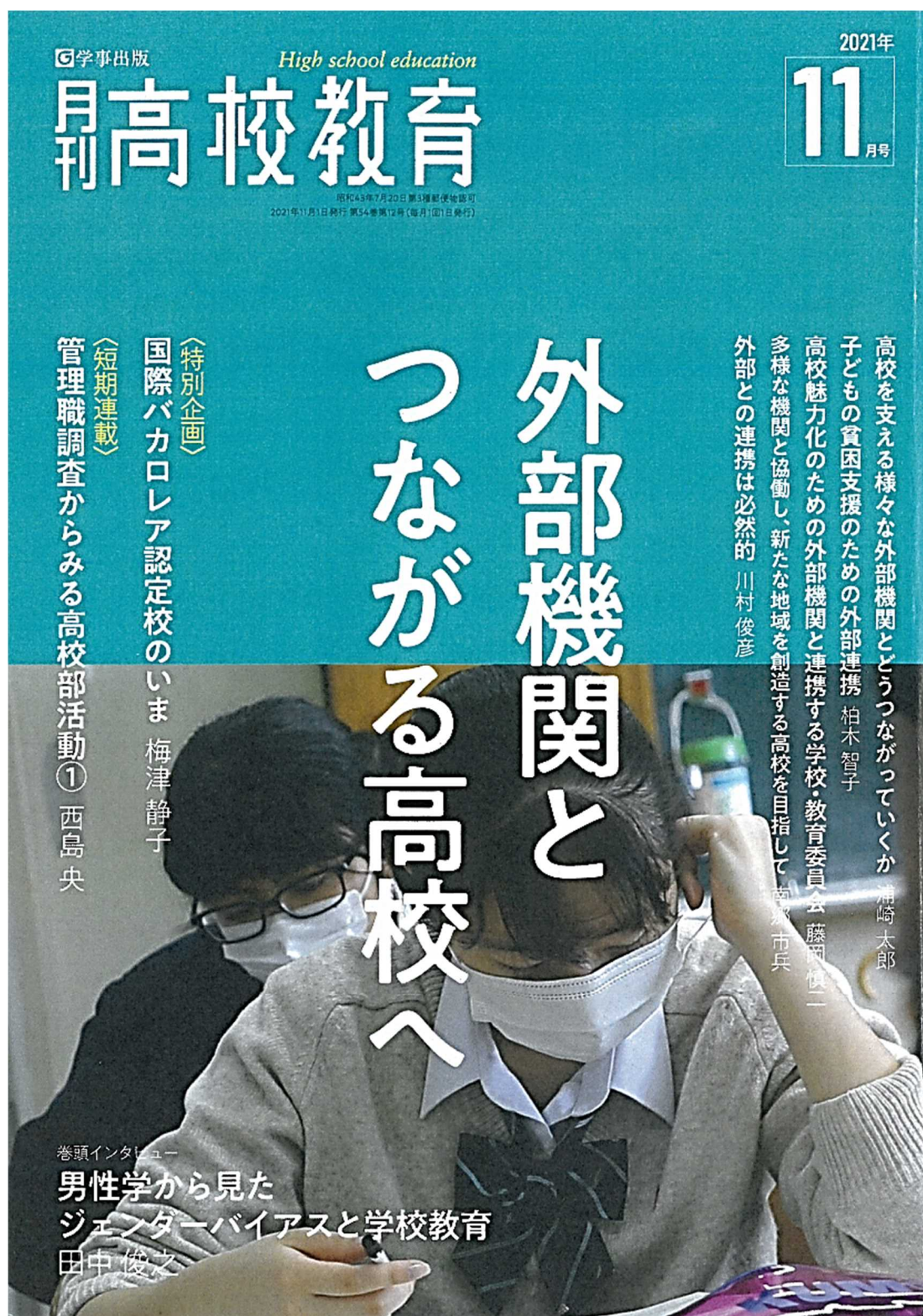


本校校長の記事が、「月刊高校教育 2021年11月号」（学事出版）に掲載されました。



学事出版

High school education

2021年

11  
月号

# 月刊高校教育

昭和43年7月20日第3種郵便物認可  
2021年11月1日発行 第54巻第12号(毎月1回1日発行)

高校を支える様々な外部機関とどうつながっていくか 浦崎 太郎  
子どもの貧困支援のための外部連携 柏木 智子  
高校魅力化のための外部機関と連携する学校・教育委員会 藤岡 慎二  
多様な機関と協働し、新たな地域を創造する高校を目指して 南 市兵  
外部との連携は必然的 川村 俊彦

## 外部機関と つながる高校へ

〈特別企画〉

国際バカロレア認定校のいま 梅津 静子

〈短期連載〉

管理職調査からみる高校部活動① 西島 央

巻頭インタビュー

男性学から見た  
ジェンダーバイアスと学校教育  
田中 俊之

# 外部との連携は必然的

## ——岩手県立花巻北高校の取組から——

川村俊彦

岩手県立花巻北高等学校長

岩手県立花巻北高校がある花巻市は、岩手県の中央部にあり、花巻温泉や宮沢賢治のふるさととして知られています。本校は、1931（昭和6）年、花巻町外17町村立学校組合立花巻中学校として開校し、本年度創立90周年を迎える全日制普通科1学年6クラス、全校生徒709名の学校です。

私は赴任2年目となりますが、昨年「百年生きる君たちが花巻100年の学びを創る」をテーマに、100周年までの10年間、時代の変化に対応した新たな教育を創っていくという思いで「花巻100年の学び改革」を推進することを打ち出しました。その根底には、赴任当時3年生と1年生で定員割れしていたこと、また、進学実績も国公立大学進学希望者が多い本校において合格者数の低迷が3年ほど続き、生徒の希望をかなえられていないという現実がありました。

本校は、地域のセンタースクールとしての伝統と実績を積んできたと自負しておりますが、少子化の中、それに胡坐をかいている状況にはないと痛感しました。そこで打ち出したのが前出の改革です。花巻に行く勉強させられるとの声が地域から聞かれました。ここが改革のポイントと考え、生徒が主体的に「夢に向かって自らデザインする学び」と「夢の扉を開く学び」を求めていくことを改革の柱としました。

本校が改革を進め目指す教育を実現しようとしたとき、その取組は学校だけでは取まらなかつた、結果的に外部とつながることが必然であったと感じています。今、「地域に開かれた学校づくり」から「地域とともにある学校」へと、学校がより社会とつながることが求められています。それは、少子化をはじめとする社会課題解決に向け、未来をつくる若者を育てる学校と

社会の連携・協働が不可欠であることからくるものであると思います。しかし、最初に外部とのつながりありきではなく、今教育に求められている様々な課題に取り組みむとき、必然的に外部とつながる必要性が生まれてくる考えた方がいいのではないのでしょうか。このように外部とのつながりを考えたとき、学校が求める教育が、外部とつながりたいという思いや必要性から強化されていく形が無理のないスタイルではないかと考えております。

### 夢に向かって自ら デザインする学び

やらせられる学びではなく、自分の夢・目標に向かって、計画を立て、実行する主体的な学びを目指しています。その実現のための一つの連携として、OBE社のアプリ開発のモニター協力をしています。

この取組では、入学生は高校3年間と1年生の1年間、2・3年生は各1年間の高校生活の計画を記すロードマップを作成します。さらに各学期の学習計画の指針として、全教科がシラバスを提示します。このシラバスには、生徒に単元項目ごとに取り組むべき学習内容TODDOと、基本、国公立大、難関大レベルの三つの到達点CANDOが提示されています。生徒は自分の目標や実力に応じて三つのコースから選択して学習に取り組む、目標に到達することを目指します。

そして、毎日のデザインとして、朝学習までの時間に1日の学習計画をOBE社（OBE社のアプリ）に入力します。しかし、入力方法が煩雑であること、学習計画を週単位で見通すことができないなどの不便があり、この取組をさらに強化するためにもっと操作性のよいアプリにして欲しいと声を上げたところ、OBE社からモニター協力のお話をいただきました。

本校と同様に、自走する生徒の育成を後押しするアプリの開発を目指しており、本校の教員や生徒からの聞き取り調査やミーティングを重ね試用版を提供していただきました。現在は、活用した生徒からのフィードバックを吸い上げ、さらなる改良に取り組んでいることです。自分の意見が反映されることなどから、生徒の活用も積極的になり、自走する生徒の育成に効果が期待できると感じております。今後は、アプリのバージョンアップに合わせ、行動変容に結びつける生徒の心の育成という本校の教育力もバージョンアップしたいと考えております。

### 夢の扉を開く学び

これからの社会の中で、夢の扉を開く資質能力を育成するための学びを目指し、その実現のために文理横断的な学びを取り入れたいと考えました。そこで連携先として浮上したのがリバネス社です。

昨年の冬季休業課外は、リバネス社と連携し農作物の「ゲノ